

## 政務活動費活動報告（研修）

(1) 研修名：

研修「あわじ環境未来島構想」について

(2) 参加者：

会派／志士の会 個人名／北川元気

(3) 日時・場所：

2013年8月9日（金） 13時00～

兵庫県洲本市五色町 ウェルネスパーク五色

### 【1. 研修目的】

東日本大震災以降、全国的にエネルギー問題は注目され、再生可能エネルギーや固定価格買取制度(FIT)など、加速度的スピードで再生可能エネルギーが普及されている。彦根市では、これまで太陽光パネル設置を全小中学校に設置。今年度は、人権福祉交流会館に太陽光パネルの設置のみとなっている。彦根の土地柄として風力や水力発電は考えにくい。今のところ太陽光がベストだが、耐震との関係など課題もある。バイオマスも課題が多く実用には至っていない。再生可能エネルギーへの取組みとしては手詰まりといった状態である。これらの現状や課題から、新たに気づきと学びを得るため、エネルギー自給への取組みの先進地である淡路島へ研修に行くことを目的とする。

### 【2. 結果報告】

(1) 内 容

#### エネルギー自給率 100%の島を目指して

##### [厳しい現状]

- ・海峡の存在で地域開発が遅れ、架橋の完成後も高額の通行量がネック
- ・平成12年～22年の10年間で人口が約10%減少(全県平均は0.7%増)
- ・平成20年度域内総生産額が、平成13年度に比べ約15%減少

##### [高いポテンシャル]

- ・歴史的、文化的価値が数多く蓄積されている
- ・エネルギーと食糧の自給自足が可能
- ・京阪神大都市圏に隣接、関西国際空港等への良好なアクセス

##### [あわじ環境未来島構想の狙い]

- ・地域が主役の持続成長モデルづくり
- ・住民、企業、行政の協働で社会実験として推進

##### [総合特区制度の活用]

- ・先駆的取り組みを行う実現性の高い地域に国と地域の政策資源を集中
- ・地域の包括的、戦略的なチャレンジを総合的に支援
- ・国際総合戦略特区と地域活性化総合特区の2種類の総合特区を制度化

##### [主なプロジェクト/エネルギー]

- ・広大な土取り跡地等を再生する大規模太陽光発電所の整備

- ・強い西風を生かした風力発電
- ・強い潮流を生かした潮流発電
- ・風力、太陽熱、バイオマスを組み合わせたバイナリー発電の技術開発を実証
- ・様々なバイオマスの複合利用

[主なプロジェクト／農と食の持続]

- ・チャレンジファームによる人材育成（就農支援）
- ・廃校を拠点としたエコ植物工場における薬草栽培
- ・漁船の電動化、ハイブリット化による漁業のグリーン化
- ・農を主軸とした地域再生の担い手を育成する大学学部との連携

(2) 考 察

今回の研修で「あわじ環境未来島構想」は、淡路島の豊富な資源を活かした住民主体・地域主導による「持続する環境の島」の実現が目的なのだと理解した。厳しい現状がある中、地元のポテンシャルを活かせば、その街にしかできない取り組みが可能である。エネルギー問題を行政だけで考えるのではなく、住民参加型の太陽光発電の実施や、民間企業との協働であるチャレンジファーム、大学との連携など、持続可能な街づくりを地域全体で考え取り組むことは本市でも検討する必要があると考える。彦根市がこれから我が国日本でどのような役割を果たしていくのかというビジョンを捉えて、必要とされる街、役に立つ街をつくっていかなければならないのではないかと考える。また、エネルギーをつくることも大事だが、その街の歴史・文化に根付いた生活を取り戻すことも視野に入れ、長期的視点に立って街づくり・エネルギーづくりを考えていかなければならない。いよいよエネルギー戦略を地域が考える時代に突入した。今後も引き続き、彦根市のポテンシャルを活かした持続可能な街づくりを調査し、今後の普及モデルになりうるノウハウを整理したい。